

高等教育活性化シリーズ 375 (通算 706 回)

2018 年 12 月 10 日 (月)

学生能動型授業の新展開——

# ICT 活用のインタラクティブ授業方策

～ ICT×教育の新展開／モバイル端末活用／学生意欲の向上策 ～

- ※ ICT 利活用の最前線～17 年度大学・短大・高専悉皆調査／BYOD の現状と課題／事例紹介
- ※ [東洋大] 大人数講義での AL/respon 活用の双方向授業／図書館電子書籍との連動／今後
- ※ [中部大] 携帯・スマホクリッカーによる授業運営／思考の変化と達成感／学生と教員の教育効果
- ※ スマホ活用—C-Learning／授業改善・教務改善／6 事例の紹介／教員ネット／教育 ICT の未来

● 講師陣 ●

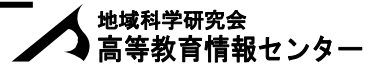
辻 靖彦 氏 / 放送大学 教養学部 准教授  
 大学 ICT 推進協議会 ICT 利活用調査部会 委員

松原 聡 氏 / 東洋大学 副学長 経済学部 教授

杉井 俊夫 氏 / 中部大学 工学部 教授

永谷 研一 氏 / 株式会社ネットマン 代表取締役

2018 年 12 月 10 日 (月) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)



日時: 2018 年 12 月 10 日 (月) 10:00 ~ 16:50

会場: 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL03-3230-2833

アクセス: 東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「神保町駅」、A1 出口より徒歩 3 分

※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

- 参加費: A. ご一名(資料代込) 41,000 円(税込)  
 B. メディア参加(資料・音声 CD 送付) 42,000 円(送料、税込)  
 C. 高等教育同人(☆) 21,000 円(税込)

- ※ メディア参加とは会場に来られない方の参加形式で、開催後に当日配布資料及び音声 CD を送付します。
- ※ なお、当日参加とともに、音声 CD をご希望の方には、特別割引いたしますのでお問い合わせ願います。
- ※ 参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。
- ☆ 高等教育計画経営研究所同人は KJ の HP でご確認ください。

申込方法: 参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法: 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880  
 三菱 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767  
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658  
 郵便振替 00110-8-81660  
 口座名 <(株)地域科学研究会>

※ ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます。

申込先: 地域科学研究会・高等教育情報センター  
 東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106  
 Tel: 03 (3234) 1231 Fax: 03 (3234) 4993 〒102-0082  
 E-mail : [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)  
 HP : <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研究会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 375

## ICT 活用のインタラクティブ授業方策

(□に✓印を)

□当日参加 □メディア参加  
 支払方法 □郵便振替 □当日払い □銀行振込  
 必要書類 □請求書 □見積書 □領収書

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

(書類宛名 \_\_\_\_\_)

連絡部課・担当者名 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講 義 項 目
10:00 ～ 11:30	<p>□ 大学における ICT 利活用の最前線 ～ モバイル端末活用の方法と教育改善 ～</p> <p style="text-align: right;">放送大学 辻 靖彦</p> <p>1. ICT 利活用教育の最新動向 ～2017 年度の悉皆調査から～</p> <p>(1) ICT 利活用教育の実施状況 (2) 推進体制 (3) 導入目的と効果 (4) 支援体制</p> <p>2. BYOD の現状と課題</p> <p>(1) そもそも BYOD とは? (2) BYOD の取り組み状況 (3) BYOD を支えるサービスやインフラの導入状況 (4) BYOD のコスト</p> <p>3. 導入事例紹介</p> <p>(1) オープンエデュケーションの活用 (2) モバイル端末の活用 (質疑応答)</p>
11:40 ～ 13:00	<p>□ [東洋大] 大人数講義でのアクティブ・ラーニング ～ respon の活用を通して ～</p> <p style="text-align: right;">東洋大学 松原 聡</p> <p>1. 新しい学習観</p> <p>(1) なぜ「主体的・対話的で深い学び」か? (2) AI と新しい学習観 (3) Twitter・Facebook を活用した双方向授業から respon へ</p> <p>2. respon を活用した双方向授業</p> <p>(1) respon 導入の概要と活用状況 (2) respon の機能 (3) 大人数講義での respon を活用したアクティブ・ラーニング (4) リアルタイム双方向授業の実際と学生の反応</p> <p>3. respon 活用の課題と展望</p> <p>(1) 図書館電子書籍との連動 (2) respon とデータマイニング (3) 大学における ICT 教育への展望 (質疑応答)</p>
14:00 ～ 15:20	<p>□ [中部大] 携帯・スマホクリッカーによる授業運営の展開と効果 ～ 学生と教員が双方向型授業から得られる効果とは ～</p> <p style="text-align: right;">中部大学 杉井 俊夫</p> <p>1. 携帯・スマホクリッカーの概要</p> <p>(1) 携帯・スマホクリッカーの体験 (2) 本学の携帯・スマホクリッカーの特徴 (3) 本学における携帯・スマホクリッカーの導入経緯と研修プログラム</p> <p>2. 双方向型授業運営としての展開例</p> <p>(1) ロール・プレイング型の使用例 (2) 理工系における知識定着型の使用例 (3) 他者評価を目的とした使用例</p> <p>3. 思考の変化を気づかせる授業としての取り組み</p> <p>(1) 大人数ディベート形式の授業 (2) 思考の変化と達成感</p> <p>4. 学生と教員とが得られる教育効果</p> <p>(1) 定着率としての効果 (2) 学生自身の学習時間や学習態度といった「学習促進効果」 (質疑応答)</p>
15:30 ～ 16:50	<p>□ スマホ活用！C-Learning システムの実績とこれから ～ 学習意欲や教育の質の向上／課外授業・教務（校務）の生産性向上 ～</p> <p style="text-align: right;">株式会社ネットマン 永谷 研一</p> <p>1. 学習支援システム C-Learning とは</p> <p>(1) コンセプト:3 つの C (2) 授業改善：授業で使える 11 の機能 (3) 教務改善：出席、授業評価、ポートフォリオ</p> <p>2. 導入事例紹介</p> <p>(1) 「学ぶことが面白い」という体験が主体性を育む (2) 国家試験対策として隙間時間を活用し合格率をアップ (3) 学生同士のピアレビューによって学習の質を向上 (4) エクスターンシップで学校・企業を超えた学習環境を活用する (5) 教職員間の情報共有で事務効率が大幅にアップ (6) 出席率と学生カルテ共有によって退学防止策を打つ</p> <p>3. 今後の展開</p> <p>(1) 可用性を飛躍的に向上させるサーバー戦略 (2) ケータイ活用教育研究会での教員ネットワーク (3) 自己肯定感向上のための PDCFA メソッド (4) ネットマンが目指す教育 ICT の未来 (質疑応答)</p>